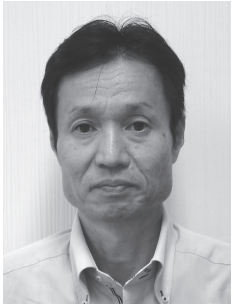
新会長挨拶

学会発足50年の節目を迎えて*

西嶋　　渉 Wataru Nishijima



博士（工学）
昭和60年　筑波大学第二学群生物学類卒業
62年　同大学大学院環境科学研究科修士課程修了
同年　林兼産業(株)入社
平成4年　広島大学工学部助手
12年　同大学大学院工学研究科助教授
17年　同大学環境安全センター教授
18年　同大学環境安全センター長
日本水環境学会学術賞

2021年6月9日に開催された第129回日本水環境学会理事会において公益社団法人日本水環境学会の会長に就任いたしました。任期の2年間，皆様方の協力を得て，日本水環境学会の一層の発展に尽力して参りますので，よろしくお願いいたします。

日本水環境学会は1971年10月日本水質汚濁研究会としてスタートを切り，1981年9月日本水質汚濁研究協会として社団法人化，1991年6月日本水環境学会に改称，2012年4月公益法人化し，今年10月に発足から50年を迎えることになりました。このような節目の年に会長という大役を務めることになり，身の引き締まる思いです。

前期は新型コロナウイルスのパンデミックに翻弄された2年間となりました。2020年3月第54回年会は中止，その後のイベントはすべてWebでの開催となり，今年8月のWET会議，9月のシンポジウムもWeb開催がすでに決定しています。松井前会長は新会長挨拶でZoomやSkypeに触れながらも，Face to faceによるコミュニケーションの重要性を説かれました。約1年半に亘って対面でのイベント開催ができない状況を経験するとなお一層当たり前であった人と人が直接会ってコミュニケーションする重要性が認識されます。本会は年会等への参加数が会員数と比して高いことが特徴でもありましたので，対面開催ができない状況は会員の皆様にも残念な思いが強かったことと思います。

一方で，代替措置として実施したWeb形式のイベントでは，新しい気付きがありました。一つは，対面開催のイベントより多くの参加者が集まる可能性が見出せたことです。様々な場所で開催されるイベントでは，日ごろ会えない人たちと交流し，その地域での滞在を楽しめるわけですが，それだけにまとまった日程や予算の確保が必要です。Web開催ではその時間のみ都合をつければどこにいても参加可能です。オンデマンド方式であれば，特定の時間を確保する必要さえありません。Webを通じたコミュニケーションツールが普及，日常化したことで，これらのツールを上手く活用すれば，これまでより多くの人にイベント等に参加してもらい，情報を伝えることができるようになったと思います。もう一つは，対面よりむしろ質疑が活発になった印象があります。2021年3月年会では，質問が止まらなく終了時間を延長したセッションが散見されました。今後対面でのイベント開催が可能になった後も，Web形式を対面イベントに組み込むことで，多様な方法でイベントに参加あるいはイベント終了後にその情報にアクセスできるようになり，これまで以上に公開された学会活動を行うことが可能となるでしょう。

この前期2年の経験を学会の発展につなげるために，今期は，リモート化・デジタル化推進委員会を発足させました。リモート化はまさしく新型コロナ下で発展したリモートツールを学会活動に組み込み，従来の枠を超えてより多くの方に学会活動に参加していただくための取り組みとなります。リモート化を通じて発信された情報は，デジタル情報として保存することを容易にしますし，HP等にデジタル情報を蓄積・公開することで会員等からのアクセスも容易になります。本会は，これまでも学会誌や年会等で多くの有益な知見を発表してきましたが，集積された知見を整理し，書籍等にまとめ，情報発信していくことに関しては十分ではなかったと認識しています。デジタル化は情報発信の選択肢を拡げますので，デジタル化を推進する中で書籍等によるまとまった情報の発信にも力を入れていきたいと考えています。

最後に本会の役割を全うする上で，とりわけ関連する研究分野とセクターの方が集い，意見・情報を交換し，議論を深める重要性について触れておきたいと思います。本会の目標の一つは，健全な水環境の保全と創造への寄与です。水環境の保全には，水を浄化・管理する技術や水環境を評価・改善する技術の開発とその基礎となる研究等を担う大学等研究機関，それらの技術を開発・社会へ適用する企業，さらには基準等の設定等の施策を講ずる行政機関等が連携することが重要となります。また，水環境を多様な視点から評価・解析・改善等していくためには，水環境保全に関連する様々な専門分野の研究者等が連携することも重要となります。本会が今後も水環境に関わる多様な研究分野とセクターの方が集い，連携していける場であり続けることができるよう努力していきたいと思います。

＊ Celebrating the 50th Anniversary of Japan Society on Water Environment